

茨城県西茨城郡岩間町方言の待遇表現

大塚 徹

I. はじめに

1. 調査対象地：茨城県岩間町は、水戸市から南西に約24km、東京から北東に約80km、県のほぼ中央部、東茨城台地の西部に位置する。人口は1995年5月1日現在で1万6624人である。町中には山と田園地帯が広がる。近年、町の東部を常磐自動車道が通過した。インターチェンジが設けられてからは工業団地、県園芸試験場、ゴルフ場なども開発整備されてきている。
(『岩間町勢要覧1991』より)
2. 調査年月日：1997年3月16日 午後3時～6時
3. 話者：小林その 大正10年 2月12日生れ (76歳)
小林幸吉が同席した。
4. 調査者・調査場所：大塚徹、話者宅
5. 調査方法：統一質問票による質問調査
6. その他：
①当方言は無アクセントであるため、アクセントの表記はしなかった。
②話者による説明は()でくくり、調査者による説明は< >でくくって示した。
③カ行の子音は語中語尾では有声化する傾向がある。本稿ではガ行で表記した。また、ガ行の子音は語中語尾でガ行鼻濁音となる傾向がある。本稿ではザ行で表記した。
④「イ」の音は従来指摘されているように中舌化する傾向があり、[ɨ]の発音が多かった。また「エ」の音は[e]の発音が多かった。

II. 調査結果

- 1 お前は元気かね A ～サン {ゲンキ (多) / ゲンキカイ (男)} BC ～サン {オゲンキデスカ / カワリナイデスカ} (人称代名詞は使用せず、呼びかける場合は直接相手の名前を呼ぶとの教示があった。)
- 2 あした家に居るか A アシタ {ウチニイルケ / イッカ (男)} BC アシタウチニ イマスカ
- 3 あした行くか A アシタ {イグケ (多) / イグカ (男)} <「イグカ」という表現は「イグケ」より少し親しみに欠ける印象があるようであった。> BC アシタ イギマスカ
- 4 行かないか A オンセン {イガナイ / イグ (多) <両表現ともに上昇調>} BC イギマセンカ
- 5 しますか AB シマスカ / ヤリマスカ (多)

- 6 見ましたか AB ミマシタカ (「ミタケ」は使用できないという教示があった。)
- 7 ゆうべは何時に寝ましたか A ユーベ ナンジニ ネタノ B ユーベ ナンジニ ネタノ (多) / ユーベワ ナンジニ ネマシタカ
寝てください C ネテ / ヤスンデ (多)
- 8 どこに行っているか A ドゴ イグノ BC オデカケデスカ (少)
- 9 どうぞ食べてくれ A タベナヨ / タベテヨ BC ドーゾ アガッテクダサイ
- 10 その写真を私に見せてくれないか A ミセテヨ BC ミセテクダサイ
- 11 あしたは家に居るだろう ABC イルンジャナイカナ / イルダロー
- 12 居なかった ABC イナガッタヨ
- 13 そう言った AB ソー ユッテマシタ
- 14 今そこに行っていた ABC イッテタヨ
- 15 友達が来ている ABC キテル
- 16 仕事をしている AB シテル / ヤッテル (多)
- 17 見せてもらった ABC ミセテモラッタ
- 18 見せてくれた ABC ミセテクレタ
- 19 私にくださった AB クレマシタ
- 20 いただいた AB モラッタヨ
- 21 私も A ワタシモ / オレモ (男性) BC ワタシモ
- 22 十分に食べました A モー タクサン タベタ BC ジューブン イタダギマシタ
- 23 持ちましょう ABC モチマショー
- 24 待たせたね A マタセチャッタネ (多) / マタセタネ BC マチマシタカ
- 25 駅でまっているよ A エギデ {マッテツカラ / マッテルヨ (男)} BC エギデ マッテマス
- 26 言ってくれ A ユッテオイテ BC ツタエテクダサイ
- 27 これをやろう A ヤルヨ BC アゲマショー (「サシアゲル」という言い方はこの地域では使用しないとの教示があった。)
- 28 かってやった ABC カッテヤッタ
- 29 主人はもう帰っている AB カエッテル
- 30 行くよ A イグヨ B イギマス (多) / マイリマス
- 31 寒いね A サミーネ B サミーデスネ
- 32 居るよ A イルヨ B イマス
- 33 よかったねえ A イガッタネ B イガッタデスネ
- 34 そうか A ソーケ BC ソーデスカ
- 35 その角を曲がって行くと～ ミギ マガッテ イグト

- 36 とんでもない トンデモナイ（「トンデモ ゴザイマセン」という言い方はあまり
しないとの教示があった。）
- 37 世話役を引き受ける時 ワガリマシタ ヤリマショー
- 38 会合での挨拶 イグヒトガ スクナイカラ アト ダレカ キボーシャ イマセン
カ
- 39 A 挨拶のしかた。 B どこへ行くのか。
- (1) お寺の住職さん A オハヨーゴザイマス B オデカケデスカ
- (2) 校長先生 A オハヨーゴザイマス B (質問をしない。)
- (3) 見知らぬ年配の男性 A オハヨーゴザイマス B (質問をしない。)
- (4) 見知らぬ年配の女性 A オハヨーゴザイマス B (質問をしない。)
- (5) 顔見知りの年上の男性 A オハヨーゴザイマス B ドゴ イクノ
- (6) 顔見知りの年上の女性 A オハヨーゴザイマス B ドゴ イクノ
- (7) 10歳ほど年下の見知らぬ男性 A オハヨーゴザイマス B (質問をしない。)
- (8) 10歳ほど年下の見知らぬ女性 A オハヨーゴザイマス B (質問をしない。)
- (9) 同級生の男性 A オハヨー B (質問をしない。)
- (10) 同級生の女性 A オハヨー B (質問をしない。)
- (11) 10歳ほど年下の顔見知りの男性 A オハヨーゴザイマス B (質問をしない。)
- (12) 10歳ほど年下の顔見知りの女性 A オハヨーゴザイマス B (質問をしない。)
- (13) 近所の中学生の男の子 A オハヨー B (質問をしない。)
- (14) 近所の中学生の女の子 A オハヨー B (質問をしない。)

III まとめ

- ① 無敬語地域としての特徴がみられた。
- 1) 項目全体を概観して、話し相手の年齢が上であったり、または目上であったりしても、表現を変えることはあまりしないようである。従って、本稿の質問項目中、BとCとで表現の相違がみられなかった。
- 2) 話題の中の人物に敬語を用いることはなかった。（質問項目12や24など）
- ② 従来、茨城方言の敬語表現として指摘があった「～オグンナショ」（～してください）や「ヤンス」（です）などは、今回の調査では聞くことができなかった。
- ③ 質問項目2、3の友人に対する場面では、終助詞の「ケ」を用いることによって終助詞「カ」を使用するより「親しみ」があるそうである。ただし、年齢が上の人や目上の人には使用しないとの教示があった。
- ④ 質問項目39の「挨拶」についてはだれにでもするが、「どこへ行くのか」という質問はしないとの教示があった。そのような質問自体が相手に対して失礼にあたるということであった。ただし、特に親しい間柄では「カイモノケー」という程度の質問はでき

るそうである。

参考文献

飯豊・日野・佐藤編 (1984) 『講座方言学』 5 国書刊行会

宮島達夫 (1961) 「福島・茨城・栃木」 『方言学講座』 第2巻 東京堂出版

(おおつか とおる 専修大学大学院)